

作成日 2021 年 10 月 01 日

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

製品の名称	チヨダ耐火シール
会社名	チヨダウーテ株式会社
住所	〒510-8570 三重県三重郡川越町高松 928 番地
担当部門	技術本部
電話番号	059-363-5555
FAX 番号	059-363-5553
推奨及び使用上の制限	せっこうボードの隙間充填材としての使用を推奨する。
整理番号	No.CU-185

2. 危険有害性の要約

GHS 分類：混合物としての評価

物理化学的危険性

爆発物	分類対象外
可燃性ガス	分類対象外
エアゾール	分類対象外
酸化性ガス	分類対象外
高圧ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	区分外
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	区分外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性化学品	分類対象外
鈍性化爆発物	区分外

健康有害性

急性毒性（経口）	区分外
急性毒性（経皮）	区分外
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	区分外
急性毒性（吸入：粉じん）	区分外
急性毒性（吸入：ミスト）	区分外
皮膚腐食性／刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	区分外
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない

生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分外
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
誤えん有害性	分類できない
環境有害性	
水性環境有害性 短期（急性）	区分外
水性環境有害性 長期（慢性）	区分外
オゾン層への有害性	分類できない
絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	特記すべき事項は無い

注意書き

作業衣、保護手袋、保護メガネ、保護マスクなどを着用する事。	
必ず換気を良くして、ご使用ください。	
皮膚に付着したり、上記を吸入すると、皮膚障害田中毒を起こす恐れがあります。	
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹼で洗う。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断を受ける。
眼に入った場合	水で数分間水洗する。直ちに医師の診断、手当てを受ける事。
飲み込んだ場合	口をすすぎ、直ちに医師の診断、手当てを受ける事。
火災の場合	粉末消火剤、二酸化炭素を用いて消火する事。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	変成シリコン系樹脂 (1 成分形湿気硬化型 変成シリコン系シーリング材)

成分名	含有量[%]	CAS No.	化審法番号
変成シリコン樹脂	計	非公開	非公開
炭酸カルシウム他	90.0~99.0%	471-34-1	(1)-122
ジブチル スズ化合物	0.1~1.0%	非公開	非公開

4. 応急措置

吸入した場合	吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、清浄な水でうがい、洗浄を行い除去する。呼吸症状が出た場合は、医師に連絡する。
皮膚に付着した場合	付着物をふき取り、多量の水と石鹼で洗う。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断を受ける。
眼に入った場合	水で 15 分間以上、まぶたの裏側を含めて水洗する。コンタクトレンズ着用の場合は、容易であればはずして水洗する。

飲み込んだ場合

直ちに水で口をすすぎ、直ちに医師に連絡する。無理に吐き出させないようにする。

5. 火災時の措置

消火剤

通常の消火剤（炭酸ガス、泡、粉末）又は乾燥砂

使ってはならない消火剤
特有の消火方法

水を消火に用いてはならない。
火元への燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。

消火を行う者の保護

消火活動は可能な限り風上から行い、有毒ガスの吸入を避ける。消火活動の際は、防火服／防災服／耐火服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

大量に漏出した場合、周辺にロープを張り、人の立ち入りを禁止する。

保護具及び緊急時措置
環境に対する注意事項

作業時は必ず手袋などの保護具を着用する。
付近の着火源を取り除き、消火機材を準備し、漏出した製品の流出を土嚢などで防止する。漏出物を直接河川や下水に流さない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量の場合は紙や布でふき取る。大量の場合は、火花の出ないシャベルなどで密閉できる容器に掬い取り、都道府県知事の許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

（8. ばく露防止および保護措置の項目を参照）

局所排気・全体換気

取扱場所の換気を十分に行い、直接の接触を防ぐための適切な保護具を着用する。

注意事項

空気中の水分・湿気により硬化する為、容器開封後は速やかに全量を使い切る。

安全取扱注意事項

作業後は洗顔、手洗を行うこと。

保管

安全な保管条件

施錠して保管する。直射日光を避け容器を密閉し、5℃～40℃で保管する。

安全な容器包装材料

製品の容器包装材料にて保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

状況に応じ、排気・排出装置を設置する。

条項に応じ、目の洗浄及び、身体洗浄のための設備を設置する。

管理濃度

データなし

許容濃度

データなし

保護具

呼吸用保護具
手の保護具
眼の保護具
皮膚及び体の保護具

有機ガス用防毒マスク
不浸透性保護手袋
有機溶剤対応性ゴーグル
長袖作業衣

9. 物理的及び化学的性質

外観等
色
臭い
沸点
引火点
発火点
爆発範囲の上限・下限
蒸気圧
蒸気密度
蒸発速度
相対密度(25℃)
溶解性
オクタノール／水分配係数
粘度(23℃)
不揮発分

均一なペースト状
ホワイト
ほぼ無臭
データなし
100℃以上
データなし
データなし
データなし
データなし (空気より大)
データなし
1.40~1.60 g/cm³
水に不溶
データなし
約 500,000 mPa・s
95%以上

10. 安定性及び反応性

反応性, 化学的安定性
危険有害反応可能性

通常取り扱い条件で安定
強酸・強アルカリとの接触により、重合あるいは分解が起こる。

避けるべき条件
混触危険物質
危険有害な分解生成物

特記すべき反応性なし。
特記すべき反応性なし。
燃焼などにより、一酸化炭素などの有毒ガスを発生するおそれがある。

11. 有害性情報

【混合物による情報】

急性毒性 (経口)

計算による推定値が 16,050mg/kg であることから、区分外とした。

急性毒性 (経皮)

該当物質の「分類根拠」より、区分外とした。

急性毒性 (吸入：ガス)

構成成分は、すべて『GHS 定義』による「液体」もしくは「固体」であることから、分類の対象にならない。

急性毒性 (吸入：蒸気)

該当物質の「分類根拠」より、区分外とした。

急性毒性 (吸入：粉じん)

該当物質の「分類根拠」より、区分外とした。

急性毒性 (吸入：ミスト)

該当物質の「分類根拠」より、区分外とした。

皮膚腐食性／刺激性

該当物質の「分類根拠」より、区分外とした。

眼に対する重篤な損傷性／刺激性

区分 2B に該当する物質を 1%未満含有する場合

呼吸器感作性又は皮膚感作性

合があるが、分類基準より区分外とした。
現在のところ「分類データ」が無いことから、
分類できないとした。

生殖細胞変異原性

データが不十分な為、分類できないとした。
該当物質の「分類根拠」より、区分外とした。

発がん性

生殖毒性

データが不十分な為、分類できないとした。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

データが不十分な為、分類できないとした。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

データが不十分な為、分類できないとした。

吸引力呼吸器有害性

現在の所「分類データ」が無いことから、分類
できないとした。

1 2. 環境影響情報

水性環境有害性（急性）

該当物質の「分類根拠」より、区分外とした。

水性環境有害性（慢性）

区分 4 に該当する物質を 7%含有しているが、
『加算法』により、区分外とした。

オゾン層への有害性

当該品の成分はモントリオール議定書の附属
書に列記されていない為分類できない。

1 3. 廃棄場の注意

残余廃棄物

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託して処理する。

汚染容器・包装

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託して処理する。空容器
類を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に、産業廃棄物（安定型・管理型
産廃）として処理または回収に回す。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連分類

該当しない（非危険物）

国連番号

該当しない（非危険物）

容器等級

該当しない

国内規制

陸上輸送

消防法、労働安全衛生法に定められた運送方法に従う。

海上輸送

船舶安全法に定められた運送方法に従う。

航空輸送

航空法に定められた運送方法に従う。

安全対策及び条件

容器に漏れの無いことを確かめ、転倒・落下・破損がな
い様に取り扱い、荷崩れの防止を確実に行う。消防法に
よる危険物では、3t 以上保管する場合、指定可燃物（可
燃性固体類）に該当する。

1 5. 適用法令

法令の名称を含む関係法令情報

化管法

該当物質なし

安衛法

該当物質なし

労安法有機溶剤中毒予防規則	該当物質なし
毒劇法	該当物質なし
揮発性有機化合物(VOC)	該当物質なし

16. その他の情報

ホルムアルデヒド基準

(日本接着剤工業会) 室内空気汚染対策の為に自主管理規定

JAIA-013980 F ☆☆☆☆

4VOC 放散速度基準

(日本接着剤工業会) 室内空気汚染対策の為に VOC 自主管理規定

JAIA-507702-4VOC 基準適合

参考文献

職場の安全サイト (厚生労働省)

化学物質排出把握管理促進法 (METI-経済産業省)

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 15th edit.UN

2008 EMERGENCY RESPONSE GUIDBOOK(US DOT)

2009 TLVs and BEIs.(ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/monoeval/grlist.html>

JIS Z 7253(2012 年)「GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示および安全データシート」

JIS Z 7253:2012 「GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」

NITE 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(化学物質総合情報提供システム)
よくわかる SDS ラベル作成実務入門(GMS、JIS Z 7253 対応)

用途上の注意

※この情報は新しい情報により改訂することがあります。

※記載内容は、現時点で入手できた資料や情報提供に基づいて作成しており、完全さや正確さを保証するものではありません。

※記載事項は通常のご取扱いを対象としたもので、特殊な取扱いをする場合は、用途に適した安全対策を実施の上、使用者の責任において取扱いをお願いします。
本品は体内に埋植・注入する用途、または体内に一部が残留する恐れのある用途には、絶対に使用しないでください。